

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	何	21
	が	
	起	
	き	
	る	

問二	イ	22
問三	エ	23
問四	指	
	示	
	を	
	出	
	す	24

問五	イ	25
問六	イ	26
問七	ア	27
問八	ウ	28
問九	安	
	心	29
問十	工	30
問十一	信	
	頼	31

2

問一	ア	
問二	エ	32
②	イ	33
⑩	ア	34
⑫	オ	35
⑬	エ	36

問三			
う	、	型	外
点	日	に	部
。	本	な	か
	社	ら	ら
	会	ぎ	の
	が	る	力
	大	を	が
	き	え	作
	く	な	用
	発	か	し
	展	っ	、
	し	た	事
	た	こ	後
	と	と	調
	い	で	整

問四	A	
	宿	
	命	
	的	
	と	
	い	
	B	41
	と	
	に	
	か	
	く	
	や	

37  
38  
39  
40

		6		5		4		3			
⑥	半径	①	防災	①	とら	①	ウ	①	イ	問十 最初	問五
	65		60		56		53		48	英	ウ
⑦	残暑	②	造花	②	ねこ	②	ウ	②	エ	語	問六
	66		61		57		54		49	で	イ
⑧	営	③	資格	③	へび	③	イ	③	ア	（各 最後	問七
	67		62		58		55		50	考	ア
⑨	照	④	毒薬	④	さる	④		④	オ	え	問八
	68		63		59				51	る	イ
⑩	減	⑤	保健	⑤		⑤		⑤	ウ		問九
	69		64						52		ウ
										47	

(配点)

① (問五) 2点、他各5点  
 ② (問二・六) 各2点、(問三) 8点、(問四) 6点、他各5点  
 ③④⑤⑥ 各2点

} 計150点

〔解説〕

1 浅生嶋『伴走者』に所収されている「冬・スキー編」（講談社）から出題しました。視覚障害のあるスキーヤー晴と、

ガイドレーサーの涼介が心を通わせていく様子が描かれています。濃い霧のせいで視覚に頼れない環境で、晴と涼介の立場が逆転します。涼介の心情や考え方の変化を読みとりましょう。

問一 B1 理由 関係つけ

視界が悪くなると、晴眼者（視覚に障害のない者）はどうなるかは、2 ページの上段に「視界が悪くなると晴眼者は本能的に恐怖を感じる。何が起きるかを事前に予測できなくなるからだ。」と示されています。

問二 B1 具体化 比較

——線②の直後に「これじゃレースの練習は無理だな」とありますから、涼介はレースの練習をすることをあきらめたのだと読み取れます。

問三 A2 関係つけ 比較

「③」晴は視界に頼っていないのだから」にはアの「おそらく」はあてはまりません。「⑤」晴を無事に帰さなければならぬ」とあるので、アの「できれば」、イ「おそらく」も不適切です。「⑦」何かあったら」とあるので、「〜たら」と呼応の関係にあるエの「もしも」があてはまります。

問四 B1 関係つけ

——線④の直前の晴のセリフに「私がスピーカーつけちゃダメ？」とあることから、晴が涼介のようにスピーカーを「一回でいいから」つけて、伴走者になってみたいと言っていることがわかります。ですから、□には伴走者の仕事の内容が入ります。本文の後半部分から、晴が先導していく様子が描かれています。そこを読み進めていくと、3 ページの上段中頃に「それにしても、選手が伴走者に指示を出すなんてな」という涼介の思いが書かれています。

問五 A2 知識 比較

——線⑥「一人で滑ると」の「の」は「こと」に置き換えられる「の」です。ですから、同じく、「走ることが好きだった」と置き換えられるイが正解です。アは「が」に置き換えられる主格の「の」、ウは名詞などについて、下の名詞を修飾する「の」、エは「なんの」のように、「〜の」の形で並列を示す「の」です。

問六 B1 理由 比較

涼介が最悪の事態を想定して、晴に下山の注意をしている一方で、晴は涼介の忠告など意に介さず、「これ、楽しい」とはしゃいでいることに注目しましょう。この二人の温度差に涼介はとまどっているのだと考えられます。ア「ばかにしてくる」、エ「自分だけは安全に」という部分が本文から読み取れません。ウ「自身が動揺していることに気づいた」とありますが、涼介はそんな自分に呆れたわけではありません。

問七

**B1** 具体化 比較

——線⑨の前で「視覚がなくなると（恐怖で）動けなくなる」と自覚しているにもかかわらず、いつもと態度を変えない涼介に、「弱さを見せない」と晴が指摘していることに注目しましょう。また、3ページ上段の八行目から十行目にも注目してください。晴は視覚障害者という「弱者」であるがゆえに「多くのものに頼って」いくことを知っています。そして、涼介は多くのものに頼ることができ晴の強さを実感し、「頼るものが多ければ多いほど、本当は強くなれるのでは」と考えています。このことから、自分自身を真に理解しておらず、自分の他に頼れるものを持っていない者は、状況が不利になったとき、「弱者」になってしまふ、ということがわかります。晴はこのことを、「弱さ（多くのものに頼ること）のない人は強くなれない」と指摘しているのでしよう。

問八

**B1** 具体化 比較

——線⑩の二行前に「晴は視覚がなくとも多くのものを利用し、世界を見ている」とあることに注目しましょう。晴は視覚がなくとも世界を把握できています。視覚以外のものを多く利用できる晴はある意味において「見えて」いるのです。このことから「見えない」ということは、世界を把握するために利用できるものを持たないことだと分かります。ア「視覚に頼る」のは、晴眼者が世界を把握する様子を指しています。イ「勇気を持たない」ということは本文にふれられていません。エ「恐怖を感じなくてすむ」のは、視覚の他に利用

できるものを持っているのですから、ウの方が適切です。

問九

**A2** 関係づけ 知識

直後に「この安心感を与えるのが伴走者の役割なんだな」とあります。

問十

**B1** 具体化 比較

——線⑫の前に「俺は晴を信頼している。…晴も俺を信じてくれているはずだ」とあります。互いの信頼を実感した涼介が——線⑫のような考えに至ったことに注目しましょう。ゆるぎない信頼があるからこそ、役割が入れかわってもいつもと同じように滑走できるのです。ア「晴が…精神的に頼りきっている」、イ「涼介は…伴走者だ」という意識は変わらない」という部分が本文には示されていません。ウ——線⑫の「いつもと逆」「いつもと同じ」ということに触れられていません。

問十一

**B1** 理由 関係づけ

問七・問十にもありましたが、この滑走を通して、涼介は、弱者と強者、視覚障害者と晴眼者というものとのらえ方が変わっています。また、晴と互いに信頼しあえていることを実感しました。晴の強さや晴との信頼関係を実感できたおかげで、自身のこりかたまった考えから解放されました。この興奮を「胸が高鳴る」と表現しているのだと考えられます。また、——線⑬の直前の「重力から解放された体が宙に浮く」というのは、実際にジャンプをした、ということだけでなく、涼介が弱者と強者について、障害について、新たなものの見

方を手に入れた喜びを表現しているのでしょうか。

**2**

竹内薫の『中高生の悩みを「理系センス」で解決する40のヒント』（PHP研究所）から出題しました。大きく二つに分かれています。どちらも主題に関わるキーワードがはじめに示されているから、具体例とまとめ、筆者の意見という形で話が展開されていることに注目できるとよいでしょう。筆者は、諸外国や理系の人の基本的な発想法が事後調整型であるのに対し、日本は事前調整型であることから、世界に遅れを取ってしまったということに警鐘をならしています。そして第4次産業革命の大きな波によって、日本社会も事後調整型にならざるを得ず、そこで活躍できるのは事後調整型の発想で、新しいものを生み出すとする人間だと述べています。「事前調整型」と「事後調整型」の対比に注目し、それらと「新しいものを生み出す」こととの関係を読みとりましょう。また、産業革命によって、「仕事の配置転換」が起ってきた歴史を鑑み、今まさに第4次産業革命を体験しているあなた方が、どのような考え方をもち、どのような学びをするべきか書かれた部分をしていねいに読みとりましょう。

問一

**B1** 理由 比較

線①の直後に「すべて事前に予測することは不可能だから」とあり、続いて「科学技術はどんどん進歩し：やるつもりだった『新しいこと』よりも、さらに新しいことがどんどん出てきます」ともあります。イ「実用化するためには：事後の丁寧な調整が必要」、ウ「理系の人の仕事は、こまごました調整をすることではなく」とは本文中に示されていません。

問二

**A2** 関係づけ 知識

文やことばを接続する言葉は、前後の文や語の関係をよく確認して入れましょう。

《②》の前で「まず始める」ことが重要だ」とあって、後で「日本の社会は：完全な事前調整型です」とあるので、前の文の予想や期待に反することをのべる時に使う「ところが」が入ります。

《⑩》の前では「それ（機械にとつて代わられた職業の人が仕事を換えなければならなくなること）は：産業革命で毎日起こった」とあり、後で「電話交換手」や「改札で切符を切る駅員」は今はいないという例があげられていることから、ここには「たとえば」が入ります。

《⑫》の後に「心がないからです」とあります。理由を表す「から」があるので、ここには「なぜなら」が入ります。

《⑬》の前では、テクノロジーが進化しても、必要とされる仕事の例（教育現場の先生・精神科医・マッサージ師など）があげられています。後でも前と同様の例として、芸術系やスポーツ系の仕事もあげられているので、ここは並列を示す「また」が入ります。

問三

**B2** 具体化 推論

この二度の時期とは、明治維新後や太平洋戦争直後です。これらの共通点を読みとりましょう。6ページ下段に注目します。これまでの仕組みのリセットにより、事後調整型にならざるをえず、「この二度の時期に、日本社会は大きく発展しました」とあります。また「過去二度の事後調整型への転

換は：いずれも外部からの力が作用していた」ともありません。

この二点をおさえて書くときよいでしょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問四

**B1** 理由 関係づけ

**A** には日本の社会の特徴とくちょうについてのことばがあてはまるはずですから、「日本の社会」ということばを手がかりに、そのことばを探さがします。すると、6ページ上段中頃に「日本の社会は、宿命的といえるほど完全な事前調整型です」という文言を見つけれられます。次に**B**についてですが、敗戦後は、「とにかく始めるしかなかった」「事後調整型」の時期です。新しいものを生み出すには、「事後調整型」でなければならぬということをしつかりおさえておきましょう。字数が足りないときは、それをくわしく説明している部分を探します。すると、「とにかくやってみて：：という事後調整型」ということばをぬきだすことができます。

問五

**B1** 具体化 比較

「第4次産業革命」がどんなものかについては、——線⑤を含む段落、そして、——線⑤の二段落後にも説明されています。インターネットであらゆるものがつながっていることも示されています。このことから、答えはウです。ちなみに、アは第3次産業革命、イは第2次産業革命、エは第1次産業革

命の例です。

問六

**A2** 知識 比較

「波に押される」の「れる」はイの「名前を呼ばれる」の「れる」と同じ受身の助動詞です。アの「入れる」の「れる」は動詞の「入れる」の一部です。ウは尊敬の意味です。エは自然と思ひ出すのですから、自発の意味です。

問七

**B1** 具体化 比較

まず——線⑦の主語が直前に書かれているように「みなさん自身」であることを確認しましょう。活躍の場については、——線⑦の直後から三段落にわたって説明されています。「事後調整型の発想をもつていれば」「革新的なアイデア」が生まれることがあります。それは概して「大きな組織の外」で生まれます。だから、今の大企業は「オープンイノベーション」を採用しているのです。そこに目をつけて、筆者は、「自身自身がベンチャービジネスを起こし、大企業から注目される存在になる」という感覚で生きていくほうがいい」と述べています。このことから、答えはアです。イ「大企業を見限り」「ベンチャー企業と手を結ぼう」などの部分が不適切です。ウ、エは主語が大企業側になってしまっています。

問八

**B1** 具体化 比較

——線⑧の「それ」は直前の「自分自身がベンチャービジネスを起こし、大企業から注目される存在になる」という感覚で生きていくことを指しています。問七でもふれましたが、「注目される存在になる」というのは、革新的なアイデアや

技術を持つ人間になるということです。また、「先に始めてみる。調整はあとから」は「事後調整型」のことです。ですから、答えはイです。ア「大企業に：独立した生き方」「自分が先頭を切つて動く」、ウ「革新的なアイデアを募集」、エ「準備なしに始めるといった向こう見ずなところ」の部分がそれぞれ不適切です。

問九 B1 関係つけ 比較

⑨の二段落前に「産業革命が起こるといふことは：時間や労力などのコストが下がるといふこと」とあるのに注目しましょう。それがどういふことが第1次産業革命の時を例にあげて⑨を含む二段落で説明されています。「コストが下がる」といふことを示しているのはウです。

問十 B1 具体化 関係つけ

リード文の「プログラミングの勉強」といふことばに注目しましょう。本文中に「英語で論理的な文章が書けることが、すなわちプログラミング」とも、「プログラミングを勉強することは、論理的な発想法の勉強」ともあります。すなわち、プログラミングを学ぶことは、「英語で論理的に考える」といふことの練習になるといふことです。

3 A1 知識

俳句の問題です。それぞれの句から季語を見つけ、季節を答えましょう。旧暦では、一月から三月が春、四月から六月が夏、七月から九月が秋、十月から十二月が冬です。とくに、一月一日から一月十五日までを新年、とすることもあります。

- ① 季語…入字 ・ 季節…春
- ② 季語…七夕 ・ 季節…秋 七夕は秋の季語です。注意しましょう。
- ③ 季語…歌留多 ・ 季節…新年
- ④ 季語…スケート・季節…冬
- ⑤ 季語…甲虫 ・ 季節…夏

4 A1 知識

助詞・助動詞の意味・用法の問題です。敬語や主語・述語・修飾語と並んでよく出題される形式の文法問題です。①例は打消の助動詞「ない」です。アの「ない」は「はしらない」といふ形容詞の一部で、イの「ない」は「存在しない」といふ意味ですから形容詞の「ない」です。

- ② 例は、「たとえば」を補えるので、例示の意味の「ように」です。アは「まるで」を補えるので、比喩(ひゆ)の意味、イは「どうやら」を補えるので、推定(すいてい)の意味です。
- ③ 例の、「〜となる」は「と」を「に」にかえられることから結果を表しています。アは「〜とともに」といふ意味、ウは上のことばを「」でくくれるので、引用の「と」です。

5 A1 知識

ことわざ・慣用語の問題です。それぞれの意味もきちんとおさえておきましょう。

- ① からの巻
  - …教科書などの内容をわかりやすく解説した参考書。
  - …自分の力がないのに、強い人の力を頼りにして、そのか

げにかくれていばること。

前門のとら後門のおおかみ

…一つ災難を逃れたのに、すぐまた次の災難にあうことのと  
え。

②ねこをかぶる

…本当の性質をかくして、おとなしそうにふるまう。

ねこのひたい

…非常にせまい場所のたとえ。

ねこの首に鈴をつける

…とても難しくできない相談をするたとえ。

③へびの生殺し

…殺しも生かしもせず放っておくこと。物事をはつきりさせ

ず相手を苦しめること。

へびににらまれた蛙

…おそろしくて動けない様子。

藪をつついてへびを出す

…余計なことに手を出したり口を出したりしてかえって面倒  
をひきおこすこと。

④さるまね

…何の考えもなくむやみに人の真似をすること。

さる知恵

…かしこいようで、実際はおろかな考え。

さるも木から落ちる

…どんな名人でも失敗することのたとえ。同じ意味のことわ  
ざとして、「弘法にも筆のあやまり」、「上手の手から水が  
もる」、「かっぱの川流れ」などがある。